

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で理念の確認を行い、チームケアに取り組んでいる。	玄関に4つの理念を掲示し誰にでも分かるようになっており、利用契約時、家族にも理念について話している。職員の話し合いの場では利用者が自然でありのまま生活でき幸せに過ごすにはどうしたら良いか折にふれ話し合っている。利用者に対しては人生の先輩としての尊敬の念を忘れず、日々新しい気持ちで、また、初心に立ち帰った支援に取り組むよう全員で心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物に参加したり、ホームの行事には近隣に声をかけている。又、月1回メモリーカフェを開催し、地域との交流に努めている。	ホームとして自治会費を納め地区の一員として活動している。文化祭には大地コーナーを設けていただき「割り箸アート」等の作品を出品、参加している。敬老のお祝いに村長がホームに来訪されたり、また、社会福祉協議会の紹介で傾聴や演芸等のボランティアも数多く来訪し利用者で交流している。中学生の職場体験も継続的に受け入れており今年も10月に3日間の予定で実施される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と連携しながら、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解と支援の方法を地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・家族・地区民生委員・社協・訪問看護Sをメンバーに年6回開催。その中で出された意見・要望をサービスに活かしている。	2ヶ月毎に行っており、偶数月の第3水曜日、家族、役場職員、民生委員、社会福祉協議会職員、訪問看護師などの参加を得て近況報告、意見交換等を行い運営に役立っている。今年の6月には認知症サポーター講座を同時開催し、13名の参加者があったという。メモリーカフェと合わせ、ホームとして地域への発信力が増しており、ホームの認知度がアップしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	民生課や地域包括支援センターと連絡を密に)取り合い、入居・退所の連携を行っている。	運営上の相談を役場担当者や地域包括支援センター職員に掛けており、連携を取っている。メモリーカフェや認知症サポーター講座については広報で情報を流していただき、プロジェクター等の機材の応援もいただいている。介護認定の更新調査は調査員がホームに来訪し家族に連絡の上調査に協力している。また、家族に代わり申請も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし、身体拘束に関する研修を行って、職員の意識の向上に努めている。危険が予知できる時は同意書をもらい、月1回見直しをしている。	玄関は日中施錠していない。玄関が開くとチャイムで知らせようになっている。外出傾向の強い方が若干名おり自分の意志に従って外出するが職員が付き添い見守りをしている。安全確保のため家族同意の上夜間のみ柵をしたり、センサーマットを使用している。研修計画の中で身体拘束の研修を実施すると共に機会ある毎に話し合いを重ね拘束をしないケアに取り組んでいる。	

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修及び社外研修を受講し、職員同士もお互いに意識しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、活用できるように、研修会等に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に面談を重ね、要望や不安な点を明白にし、十分な説明を心がけている。又、改定が出た時点では、文書によりお知らせし署名をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や相談窓口を設け、随時対応できる体制にしている。家族には運営推進会議への参加を呼びかけたり、面会時に時間を取って、意見・要望を伺っている。	殆どの利用者が自分の意思を伝えることができる。若干名の方が難しいが表情を見て判断し対応している。チームケアを目指し全職員が同じ情報を共有し同じ対応を取るよう心掛けている。家族の来訪の頻度は様々であるが何らかの形で全家族が来訪している。月1回「ホームだより」と「個人別状況」を家族に送り意思疎通を図っているため誕生日にケーキを持って来訪される家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で意見・提案を聴く機会を持っている。又、連絡ノートに記して、職員会議で取り上げ、反映している。	月1回第2水曜日に職員会議を行い利用者に関わる事、運営についてなど、様々な意見交換や提案がなされ全職員の合議で事を決め進めている。自己申告書兼考課表での自己評価が年1回行われ、施設長が評価しコメントを付け本部に提出後、本部より担当が来訪した際に個人面談が行われ人事考課に繋がっている。また、年間研修計画により様々な職員研修が行われ、知識や技術を高め支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議に参加したり、訪問時に面接を行い、意見・要望を聞き、職場環境の向上に努めている。又、年1回自己評価を提出し、給与等に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基き、各自に適した研修に参加できるようにしている。2か月に1回、社内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH連絡会の会員として、研修会や交流会に参加し、ている。また、近隣のGHの集いに参加し悩みや問題点等の話し合いの場を作っている。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を活用してパーソンセンタードケアに、努め、じっくり傾聴することを基本として、一人一人と向き合ってよい関係を築くことができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たっては、十分な話し合いを行い、理解してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴・習慣・趣味・趣向をふまえ、どのように暮らしていきたいか、必要な支援は何かを第一に置き、サービスを考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくり、のんびり、一緒にをモットーに利用者さんのペースに合わせて家事全般を協力しながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、おもに心理面を支えてもらえるよう、面会や外泊等に協力頂き、職員は日頃の様子を伝え、家族が戸惑わないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方々と接点を持てるよう、外出の機会を増やしている。又、以前住んでいた近所の友人・知人が気軽にホームを訪ねてきている。	近所の方や兄弟の来訪がありホールや各居室でくつろいでいただいている。電話を掛けたいという利用者には職員が希望する相手先の所に掛け話をしている。馴染みの美容院に出掛ける利用者も数名おり、また、馴染みの美容院が来訪しカットなどを行っている方もいる。ホーム利用以降仲良くなられた利用者同士が数名で各居室を行き来し女子会を楽しんでいるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重しながら、気の合う仲間作りができるよう、にしている。利用者さん同士が部屋を行き来する姿も見られる。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてから数年以上が経過し、すでに亡くられており、家族へのフォローは難しくなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望・希望を受け止め、意に添えるよう援助している。表現が困難な方には、多様な声掛けを工夫して、要望を引き出せるように努めている。	利用者一人ひとりの思いや意向を日々の取り組み状況の中でアセスメントシートに落とし職員全体で情報を共有し取り組んでいる。また、日々の支援の中で利用者に対し多くの選択肢を投げかけ選んでいただくように意識し、表情を見て要望を把握するようにしている。更に時間を見て、特にお昼寝時、職員が居室に入り利用者と1対1で話し、意向を聴くようにしている。そのような中で「手を握っていてほしい」等の希望を言う方もおり応じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族はもとより、それまで関わりがあった担当者の方の情報も大切にしながら、これまでの暮らしの把握に努めてる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントをしっかりと行い、一人一人の生活のリズムを把握し、できることを見つけて続けていけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期目標6ヶ月・短期目標3ヶ月をめどにモニタリング、アセスメントを行い介護計画書を作成している。急変した時は、医師・看護師・ケースワーカー等と話し合いを行い、その都度見直しを行い、介護計画に反映している。	定期的な見直しを行い、特別な変化があれば即時見直しを掛けている。利用者の日々の支援内容等を職員会議でモニタリングし職員全員の合議で見直し、計画作成担当者が具体的なプランを作成し家族にも語り支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の話したこと、行動を介護記録に残し、職員間で話し合いをしながら、実践、介護計画に結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、協力医、訪問看護ステーション、ボランティアの協力を得ながら、その時々ニーズに対応している。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報等を利用し、催し物や行事に参加できるよう支援している。また、ホームの行事がある時は近隣、友人に声をかけ、気軽に訪問してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定協力医院と契約を結び、受診・往診の対応ができる体制になっている。電話での相談にも気軽に乗っていただいている。	本年4月村内に訪問看護ステーションが開設された。当ホームも契約を結び24時間オンコール対応となっている。また、毎週火曜日には看護師の来訪があり利用者の健康管理を行うと共に協力医との連携を取っていただき往診等の対応を取っていただいている。以前からのかかりつけ医を利用されている利用者については受診の付き添いは家族にいただいているが緊急時には職員が対応し窓口を施設長とし家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	27年12月から、訪問看護ステーションと契約をし、週1回健康観察に来られている。又、緊急時も24時間体制で、対応しており、安心して暮らせるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入・退院時には医師、看護師、ケースワーカーと打ち合わせをし、特に退院後の生活、留意点等相談できる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態、家族の心境の変化等状況に応じ、対応している。訪問看護、協力医とも連携しながら看取りまで行えるように体制を整えている。	当ホームの重度化及び終末期を迎えた時の方針を利用契約時に説明し同意を頂いている。開設以来数名の方が最期の時を迎えており、現在も看取りまで行う体制を整えている。看取りに直面した際は夜間の連絡網の確認、対処の仕方等、職員全体で話し合いを重ね情報を共有し協力し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、職員は年1回以上救急救命訓練を行っている。現在、普通救命講習修了者が3名。今後も計画的に受講していく予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中と夜間帯に分けて行い、職員は持ち場、役割分担に基き行動できるようにしている。26年度より村内福祉施設が災害時協定を結び協力できる	年2回消防署員参加の下、車椅子の方も数名いるが利用者全員参加で外へ避難している。水害、地震、火災とそれぞれ対応の異なる事態が起こることを想定し、消防署に相談したり職員の意見も聞きながら対応できるようにしている。近くに川が流れているので状況を見て避難指示が出る前に避難することを内部で徹底している。また、夜間想定として夜勤職員1人で利用者全員を外へ避難させるのにどの位の時間がかかるのかという訓練も重ねている。食料品や介護用品の備蓄も2週間分用意されている。	

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の個性・人格を尊重し、接する態度や言葉使いに留意しながら対応できるよう心掛け、同時に研修も行っている。	利用者の呼び方は名前に「さん」を付け、唯一、男性利用者は「お父さん」と尊敬の念を込めお呼びしている。センター方式で2週間データーを取り利用者の意向を汲み取り、職員間で話し合い、意思を尊重しプライバシーを守り楽しい生活が出来るよう支援に取り組んでいる。プライバシー保護の勉強会も行い職員の理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に待つ姿勢で接するようにし、職員のせかす態度や思い込みがないよう、心掛けています。又、意思決定しやすい声掛けや促しにも工夫してあたるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の体調や気分を考慮しながら、要望に応じられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は好みで選んで頂き、なかなかできない方は二者択一方式で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に立てない方はテーブルでできる手仕事を、お願いしたり、食器洗い・拭きも進んでして下さる方と一緒にいる。献立にも参加してもらい、食べたいものや好みのもを購している。	全利用者が自力で食事が出来、食形態も一部キザミの方がいるが殆ど常食である。半数以上の利用者が準備から片付けまでお手伝いが出来、訪問調査日も笑顔でお手伝いをする姿が見られた。現在は毎食ホームで献立を立て調理を行い、職員も利用者と共に楽しく食事するようにしている。近隣の小学校より児童が作った野菜の差し入れがあり、利用者手作りの「雑巾」をお礼として贈り喜ばれたという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事ができるよう心掛け、1週間単位で献立を立てている。1日の水分摂取量を記録し、熱中症や脱水症にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けでできる方は、自力で行っている。出来ない方は職員が介助し、清潔が保てるようにしている。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツ着用を基本とし排泄感覚が鈍らないように努めている。現在、日中も紙パンツを使用している方は2名。	自立の方が半数以上いる。布パンツ使用に力点を置き日中は三分の二の方が布パンツで三分の一の方がリハビリパンツ使用である。排泄チェックシートでデータを取りづむを把握し、個人別に合わせた声掛けをトイレへ誘導している。人前で失敗した時は自尊心を傷つけることのないように配慮し、さりげなく声掛けし対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をとり、1人1人のリズムを把握している。飲食物の工夫をしながら、薬の服用も併せて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後を問わず好きな時間に入浴できると準備をしている。平均1日おきに入浴されている。夕食後や夜間は職員の配置の関係で希望に添えていない。	見守りでの自立の方が数名おり髪と背中が職員が洗っている。希望があれば毎日でも入浴できるようにしている。平均週3回、利用者の希望に合わせて入浴していただいている。現在、入浴拒否の方は基本的にいないという。冬場は希望に合わせて就寝前に足浴も実施しており、季節に合わせて入浴剤を使用したり、ゆず湯、菖蒲湯等も行い入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のペースに合わせて居室やホール、畳のある所で寛いで頂けるよう、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方される薬について理解しており、症状に変化があった時は速やかに医師に連絡をし、指示を仰いでいる。朝・夕・入浴時のバイタル測定も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・縫い物等できること、したいことを見つけて場を提供している。ふうせんバレーで体を動かしたり、歌が好きな人が多く、毎日歌っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節を考慮しながら、ドライブに出かけることが多い。外食にお連れされる家族もおり、楽しみにされている。	利用者の持てる力は自力歩行が半数強、車イス使用が半数弱という状況である。散歩コースは近くの川の堤防や公園で、自然とふれ合っている。ホームの南側には整備された芝生と大きなウッドデッキがあり、ほぼ毎日外気浴を楽しんでいる。また、季節に合わせて、桜、ハナモモ、あじさい、紅葉などを見るために少人数に分かれてドライブも楽しんでいる。村内の昼神温泉で行われるつるし雛の催しの見物にも出掛けている。	

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由に使ってもらえるようにしているが、“家に電話して”と依頼されることが多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材をふんだんに使った心地よい館内には、季節の花が飾られたり、入居者さん作成の作品等もさりげなく飾ってある。オープンキッチンからは、料理のにおいや包丁の音も聞こえてくる。	玄関を入ると大きなチャイム音で来客を知らせてくれる。一日の大半を過ごすホール兼食堂は広々とし、大きな窓で明るく開放感のある造りとなっている。一角には畳スペースがあり家具調コタツも設置されており利用者に対する配慮が感じられる。オープンキッチンがあり、ホールを囲むように各居室が配置され職員の目が届くようになっている。館内の掲示板には利用者の作品、メモリーカフェ、認知症サポーター養成講座の様子等が紹介されホームの活動が手に取るようにわかる。空調はエアコンと床暖房使用で快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの角にはソファや畳ベンチがあり、思い思いの場所で過ごして頂けるよう、配慮してある。冬はこたつも出して、寛いでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの家具や家族の写真等も飾り、落ち着いた過ごせるようにしている。過失も2部屋あり、それぞれの習慣を尊重しながら暮らしていけるよう支援している。	各居室には使い慣れた家具やテレビが置かれ、家族の写真等も飾られ、居室内の掲示板にはご自分が作られた作品等も飾られている。利用者の気持ちを尊重し畳引きの和室も用意されており、座布団、コタツ等が置かれ生活感が感じられる居室となっている。また、各居室入口には非常時に備え利用者の情報カードが個人情報に配慮された形で収められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーの中、各部屋に目印をつけ、協同で使うトイレやお風呂等は解り易いように表示している。		